

令和7年度静岡県地球温暖化防止県民会議 議事要旨

1 日時・場所等

日時	令和8年2月16日(月) 14:00~15:30
場所	県庁別館9階第1特別会議室
出席者 職・氏名	<p>以下、敬称略</p> <p>(会長) 静岡大学グローバル共創科学部 教授 水谷 洋一</p> <p>(委員) 静岡大学グローバル共創科学部 教授 板倉 美奈子 エネルギー管理指定工場連絡会静岡地区会 会長 米山 克彦 (一社)静岡県LPガス協会 専務理事 鈴木 邦佳 静岡県ガス協会 静岡ガス株式会社 執行役員 経営戦略本部長 兼 経営企画部長 勝呂 恭正 (一社)静岡県環境資源協会 事務局長 井上 隆夫 (公社)静岡県建築士会 事務局長 川和田 篤 (公財)静岡県産業振興財団 常務理事 石田 豪志 (代理出席) (公社)静岡県産業廃棄物協会 専務理事 秋山 雅幸 (一社)静岡県商工会議所連合会 事務理事・事務局長 中村 泰昌 (代理出席) 静岡県消費者団体連盟 理事 土屋 美千子 静岡県生活衛生同業組合連合会 事務局長 田中 尚 静岡県石油商業組合 事務理事 板倉 正浩 静岡県中小企業団体中央会 理事 眞野 匡雄 静岡県電機商業組合 理事長 溝下 正美 (代理出席) (一社)静岡県バス協会 専務理事 中山 國光 (一社)静岡県フロン回収事業協会 代表理事 梅原 啓一 (一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部 総務部次長 楠ヶ谷 良巳 中部電力株式会社静岡支店 支店長代理 松本 雄治 東京電力パワーグリッド株式会社静岡総支社 副総支社長 平澤 朋 (代理出席) 静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター長 佐藤 博明 静岡市 環境局次長 佐藤 暢久 浜松市 カーボンニュートラル推進課 課長補佐 加藤 雄一</p>

	<p>静岡県 暮らし・環境部長 縣 茂樹 静岡県教育委員会 教育政策課長 白土 達夫</p> <p>(事務局)</p> <p>暮らし・環境部環境局 環境局長 清 真人 暮らし・環境部 参事兼環境政策課長 佐藤 信太郎 暮らし・環境部環境局 廃棄物リサイクル課長 西尾 清仁 経済産業部産業革新局 エネルギー政策課長 新居 一馬 経済産業部森林・林業局 森林計画課長 深江 健(代理：森林整備課長 岩崎雄一郎)</p>
議題	<p>(1) 第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の進捗評価 (2) 静岡県地球温暖化対策実行計画の中間見直し</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 座席表 ・ 出席者名簿 ・ 資料 1-1 第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の進捗評価 ・ 資料 2 第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の見直し方針 ・ 資料 3 気候変動対策の推進

2 会議録

(1) 第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の進捗評価

(事務局から資料 1-1 に基づき、第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の進捗評価について説明した。)

(質疑応答)

【第4次静岡県地球温暖化対策実行計画の進捗評価】

(委員)

資料 1-1 の 12 ページの森林吸収量について教えて頂きたい。森林吸収量が、国よりも県で大きく減少した理由について、高齢級のスギ・ヒノキが増加し、若い木が育っていないという説明であった。なかなか若い木に変わらないということは、よく分かっているが、2021 年度、2022 年度は増加しているグラフとなっている。急に変わらない中での、2021 年度、2022 年度が増えた理由は何か。

(事務局)

森林は高齢級林が多く占めているということで、県としても、主伐・再造林を

進めているところである。その中で、徐々に主伐により高齢級林を切って、若い木の再造林を進めている結果が、数字に出てきているのではないかと考えている。

(委員)

2021年度、2022年度は新しくなった森林の面積が大きかったということか。

(事務局)

2021年度、2022年度から主伐・再造林を促進しており、徐々に面積が増えているため、この数字が少し上がってきているのではないかと感じている。

(委員)

このあたりは、他県の状況も同様か。

(事務局)

全国的に見ても、高齢級化は進んでおり、どの県でも森林の若返りを進めるため主伐を促進しているところである。静岡県も、徐々に進めていく中で、主伐の面積が増えていると捉えている。

(委員)

資料1-1の8ページのその他ガスの排出状況で、自然冷媒の採用等により、前年度比で14.6%削減ということが記されている。我々も既存の古い機械の更新を進めるにあたり、令和7年度静岡県カーボンニュートラル促進事業費補助金を活用しているが、この補助金を活用し、自然冷媒を導入した実績を教えてください。

(事務局)

令和7年度補助金の実績は、交付決定が161件あり、そのうち、自然冷媒の導入は2件である。令和6年度補助金の実績は、229件のうち自然冷媒の導入は4件である。

どちらも、冷凍・冷蔵機器の実績であり、空調機器の実績は今のところない。補助金の募集要項には、自然冷媒の導入が望ましいと明記しており、県としても、自然冷媒の導入を進めているところである。

(委員)

まだ件数としては少ないかと思われるが、我々も、温室効果ガス排出の削減に向けて、今後とも努力していく。

(会長)

資料 1-1 の 11 ページの再生可能エネルギー導入量には、水力発電は入っていないのか。

水力発電も含めると、本県の電力需要量の何%くらいが、再生可能エネルギーで賄われているか。

(事務局)

中小水力発電は、数字的にかなり小さいため、グラフには現れていない。2023 年度実績で中小水力発電は、0.7 万 kl 程度である。

また、直近の実績で県内の電力消費量に対する再生可能エネルギーの導入率は、およそ 22~23%である。

ただし、ここでいう再生可能エネルギーは、FIT や FIP などでは把握できる数値となっており、いわゆる自家消費は含まれていない。完全に正確なものではないが、拾える範囲の中で把握している数字である。

(2) 静岡県地球温暖化対策実行計画の中間見直し

(事務局から資料 2、資料 3 に基づき、静岡県地球温暖化対策実行計画の中間見直しについて説明した。)

(会長)

資料 2 の 5 ページにある令和 8 年 3 月改訂予定のエネルギー総合戦略では、再エネ導入目標が、数字の上では 10 万 KL 相当分の減少になっている。どういう理由で、このような数値になったのか、概要を教えてください。

(事務局)

現行の計画は、令和 3 年度に作成し、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、中小の水力発電を対象とした。太陽光発電は一定の伸び率としたが、風力発電やバイオマス発電、水力発電は、推計できないため、策定時点で公表されている事業計画の容量をベースに数字を積み上げた。

しかし、物価の高騰などにより、風力発電、バイオマス発電は、当時の目標から、約 7.2 万 kl 分の事業計画が頓挫してしまった。

こういった発電施設はリードタイムが長いものであり、2030 年度の計画策定

にあたっては、事業計画が無いものを、あと数年で積み上げることは、現実的ではないことから、現時点の事業計画をベースに修正したものである。

ただし、国の地球温暖化対策計画でも 2040 年の目標が語られているが、エネルギー政策も、ベースは国の第七次エネルギー基本計画に沿いながら進めているところである。

国の計画では、2040 年度の再エネの導入量を、4 割から 5 割にするという高い目標を設定しているため、改定中の県のエネルギー総合戦略の 2040 年を見据えた方向性は、国の掲げる目標に寄与できるよう、応分の責務を果たせるよう、しっかりと再生エネルギーの導入を進めていく方向性を示したところである。

(委員)

中小企業を見ると、若い方がたくさん取組を結構前向きに、考えているような気がしている。それは小・中学校での環境教育の成果と思うが、計画の中で、今、小・中学校の子供たちへの教育について、どのような施策をしているのか、また、今後どのようなことを考えているのか教えていただきたい。

また、資料 2 の 11 ページで、デコ活の認知度が 10.5%でかなり低い。国民運動の割には低いと思うが、デコ活と県の活動の関係を教えていただきたい。

(事務局)

県の施策としては、小学生向けには、アースキッズチャレンジと言って、静岡県地球温暖化防止活動推進センターにお願いし、小学生向けの環境教育等を進めている。中学生向けには、省エネ節電講座を、総合的な学習の時間の中で地球温暖化防止活動推進センターの指導員等により年間 10~20 件ぐらい行っている。高校生には、3 年前から静岡大学との連携協定に基づき、アオハルエコロジーラボという取組を進めている。14 校の高校から 42 名の生徒が参加し、年間を通じてワークショップを行い、脱炭素に関するアクションや、自らの提案を切磋琢磨しながら作り上げている。大学生は、インカレエコカフェと言って、静岡大学、県立大学、常葉大学、東海大学の環境系のサークルと県との間で協力して、サークル活動を応援する形で進めている。

次期計画では、さらに発展的な形にするつもりであるが、具体的な記述は部会の中で議論し、計画に盛り込みたいと考えている。

デコ活は確かに認知度が低いですが、県との関係においては、デコ活をスタートさせる時に、活動を宣言する自治体の募集があり、静岡県もデコ活宣言を行ってデコ活に参加している。また、国から県にデコ活に関する普及啓発等の依頼が来ることがあり、市町、各団体に周知を流すなどの関わりを持っている。

(会長)

県の環境教育については、小中高大の児童・生徒・学生を対象に、リーディングプロジェクトのように進めている。市町でも取り組むところもあるので、いろいろなネットワークを使って進めていると思う。

デコ活は知られていないかもしれないが、静岡県版のデコ活ともいえる COOL チャレンジは 34.1%の人が知っており、これは大きな数字と思う。

(3) 閉会

静岡県くらし・環境部長より挨拶をおこなった。